

# 映画研究部

## 映画鑑賞レポート

### 平成28年度

### 8月分

新入部員募集中です。

映画評論や映画紹介、  
映画に関する随筆を  
発表してみませんか。

興味のある人は顧問まで。

鑑賞レポート 一覧

- 10320 「銀の匙 **Silver Spoon**」
- 10639 「死霊高校」
- 10738 「青空エール」
- 10741 「アリス・イン・ワンダーランド 時間の旅」
- 10831 「アリス・イン・ワンダーランド 時間の旅」
- 20418 「ピカ☆ンチ **LIFE IS HARD** だけど **HAPPY**」
- 20725 「オレンジ」
- 20727 「バタフライエフェクト」
- 20836 「ファインディング・ドリー」

## 鑑賞レポート 10320

映画名「銀の匙 **Silver Spoon**」

評価 9 / 10

### ストーリー

札幌の私立中学に通っていた八軒勇吾（中島健人）は成績がなかなか上がらず受検に失敗。学力競争と厳しい父から逃げるために、寮制の大蝦夷農業高等学校に進学。クラスの皆は将来の夢や目標があるなか、八軒は将来の夢や目標がなかなか見つからない。慣れない農業高校での生活の中で悩み、戸惑いながらも自分なりの答えを見つけ始めるのだが…。

### 鑑賞レポート

この映画には、たくさんの動物が出てきます。でもその動物は動物園などにいる動物とは違って、最後には殺されて人に食べられてしまう、食用の動物なのです。学校の皆が一生懸命かわいがって育てても、最後には食べられてしまうのです。八軒たちもクラスのみんなで豚の「ぶたどん」をかわいがって育てていたけど、結局「ぶたどん」も最後に出荷されてしまい、悲しくなりました。けど、八軒はどうしても「ぶたどん」を忘れられなくて、出荷されてしまった「ぶたどん」のお肉を夏休みに必死に働いて稼いだバイト代で買って、一緒に育てたクラスメイトの皆で食べるところが感動的でした。この映画を観て、私は普段普通に食べているご飯だけど、こういう家庭があって、私たちの食卓にまわってきているということ。そして、食べ物を食べる時は、全ての物に感謝して食べ残しをせずに食べることの大切さを改めて感じました。

### 今月の鑑賞映画報告

銀の匙 **Silver Spoon**

評価 4 / 5

感動的でした。

映画名「死霊高校」

評価 4 / 10

ストーリー

1993年、高校演劇「絞首台」の上演中に主役の少年が惨事に見舞われる。20年後、同じ舞台で「絞首台」を再演することになった4人の高校生は、公演を中止させるため潜入した深夜の校舎で、かつての惨劇を報道した映像を見てしまう。その直後から出入り口が開かなくなり、さらには一人ずつ首つりの犠牲となり……。

シネマトゥデイ参照

鑑賞レポート（ネタバレあり）

昨今流行の一人称視点ホラー映画。製作費も低予算で済むし、それなりの臨場感ももたらすことができるので、この撮影技能はよく使われる。だが、この類のホラー映画で成功しているものといったら、「パラノーマル・アクティビティ」等が挙げられる。どんなに恐ろしいことや、常人なら気絶しかねないようなことが起きても、絶対に手元のハンディカムは離さない（手ブレも少ない）。そして携帯もつながらない。高校なのに出入り口は一つしかない。窓からの脱出も試みるが、結局高くて上れない。不自然な点は山ほどある。だが、いちいちそういった点を指摘するのはナンセンス。純粋な気持ちで鑑賞するのがベスト。この映画の完成度は、私個人の評価としては、決して高くないが、舞台の背景やストーリーはそこらのB級ホラーよりはしっかりしていたと感じた。演出に関しては別だ。大きな音や、画面に急に一瞬だけ登場するオバケで観客を怖がらせにくるが、だいたい予想できてしまう。ホラー映画というのは、マンネリと戦い続けなければいけないジャンルだと私は感じた。ホラー映画が苦手な人は、それなりに楽しめると思う。

今月の鑑賞映画報告

死霊高校 評価 2 / 5

一人称ホラー映画

ピラミッドの呪い 評価 3 / 5

ピラミッドの中で怪物から逃げ回る映画。

アントマン 評価 5 / 5

オリジナリティあふれるヒーロー映画

エリア0 評価 2 / 5

エイリアンが追いかけてくる映画

## 鑑賞レポート 10738

映画名「青空エール」

評価 9 / 10

ストーリー (ネタバレあり)

吹奏楽と野球の強豪校である白翔高校に入学した小野つばさは「甲子園で演奏して応援したい」というだけの理由で吹奏楽に入部する。しかし、吹奏楽に真剣に取り組むうちに、吹奏楽の甲子園「普門館」を目指すようになる。何度も挫折思想になるがクラスメートで野球部の山田大介に勇気づけられ、ふたりはある約束をかわす。

鑑賞レポート (ネタバレあり)

私は、この映画の予告をテレビで見て、面白そうだったので、友達とこの映画を見に行きました。この映画は、吹奏楽部と野球部の**2**人を描いた話で、私も中学校の時に吹奏楽部だったので、知っている曲や共感できることもあって、すごく見やすかったです。私は小野つばさの「甲子園で演奏して応援したい」という理由だけで吹奏楽部に入って、他の人は推薦で入ってきている中で、初めてトランペットをするのに、みんなの前で「トランペットをやりたいです」と言える勇気がすごいと思ったし、誰に何を言われても、負けずにがんばる姿に感動しました。この映画を観て、もう一度吹奏楽をやりたいなと思ったし、上手くいかないこともあるけど努力を続ければ叶うこともあるということを知りました。

今月の鑑賞映画報告

貞子 VS 伽椰子

評価 4 / 5

ビックリする場面が多くて怖かったです。

アリス・イン・ワンダーランド 時間の旅

評 4 価 / 5

前作では描かれていない場面もあって、すごく感動しました。

青空エール

評価 5 / 5

今までとは違う感じの恋愛映画ですごく感動しました。

## 鑑賞レポート 10741

映画名「アリス・イン・ワンダーランド 時間の旅」

評価 10/10

ストーリー (ネタバレあり)

ワンダー号での航海を終え、ロンドンにもどったアリスは蝶になったアブソレムに久々に会い、マッドハッターの異変を聞き、ふたたびアンダーランドに行く。そして久しぶりにマッドハッターに会うと元気そうだったが、アリスに「死んだ家族を探すことは不可能」といわれたとたん、病床に伏せてしまう。アリスはマッドハッターを助けるため、時間を戻せるクロノスフィアを使い、マッドハッターの家族が活着ているのかと、ある一つの事件の真相を確かめるため過去に戻ってどうするかというストーリーです。

鑑賞レポート (ネタバレあり)

私はもともとこの映画の前にやったアリス・イン・ワンダーランドを見ていてとても面白いと思いました。そして、テレビでこの映画の予告を見て、もっと面白そうだったので、友達と観に行きました。

私はあの映画の始まり方と、これからどうやってアンダーグラウンドに行くようになるのかとかいろいろ考えながらわくわくしていました。そして自分が予想していた感じにならなかつたりして、とてもおもしろかったです。

その中でも一番よかった場面は、アリスがクロノスフィアを使い過ぎたせいで、過去の場面から現実までアンダーグラウンドの世界が石のように全て固まってしまいました。でもそこで奇跡が起き、クロノスフィアが元にあった場所に戻り、正常に時間が動き、石のように固まった世界が全て元通りにもどり、そしてマッドハッターの家族が元気に戻ってきたところでした。その場面では思わず涙が出てきたぐらいとても感動しました。

この映画は笑いも感動もあり、とてもよい映画なので、是非観て欲しいです！

今月の鑑賞映画報告

アリス・イン・ワンダーランド 時間の旅 評価 5/5

感動と笑いがあつて、もう一度観たいと思いました。

暗殺教室 評価 5/5

迫力があつて最高でした！

スクービー・ドュー 評価 5/5

すごく面白いです!!

## 鑑賞レポート 10831

映画名「アリス／イン／ワンダーランド 時間の旅」

評価 9／10

ストーリー（ネタバレあり）

前作の最後で航海にでたアリスが帰ってくるころからはじまり、戻ってきてすぐに航海をするなと言われ、落ち込んでるところにワンダーランドの入り口があらわれ、ワンダーランドで再び冒険を始める！

鑑賞レポート（ネタバレあり）

もともと前作から大好きで今回も面白くて、アリスが家族のことで気が狂ってしまったマッドハッターを助けるのが今回のお話で、時間を今回は旅をするけど、前作とは違い、今回は全てのへんてこりんに対して普通に対応していくアリスが面白かったです。

そして、今回でてくるワンダーランドの時間を管理する『タイム』というキャラがとてもおもしろいキャラで、時間なだけに1分1秒をおしんで使っていて、話すだけでもせかす姿が面白かったのと、タイムの恋人として前作で追放された赤の女王が出てきて、とても驚いたし、赤の女王が色々やって、ワンダーランドがピンチになってしまうけど、最後はアリスのおかげでワンダーランドは助かるし、マッドハッターの家族も無事に助かって、赤の女王と白の女王も仲直りを果たし、ワンダーランドでの問題も解決し、現実に戻り、お母さんが開き直ったことで、アリスと母で会社を立ち上げ、全て丸く収まってハッピーエンドでとても面白く、この夏一番のオススメです。

今月の鑑賞映画報告

アリス／イン／ワンダーランド 時間の旅 評価4／5

前作が大好きな人にぜひ観て欲しいです！

ファインディング・ドリリー（吹き替え版） 評価5／5

小さい子でも大人でも楽しめる面白さでした。

もののけ姫 評価3／5

何度見ても面白い！

## 鑑賞レポート 20418

映画名「ピカ☆ンチ LIFE IS HARD だけど HAPPY」

評価 5/10

ストーリー（ネタバレあり）

同じ団地で育ったシュン、ハル、ボン、チュウ、タクマ、主人公5人の10代の青春を描いた2002年の第1作。そして20代になって5人が成人し、社会人となった2004年の第2作に続いてシリーズ10年ぶりとなる3作目は、5人が全員30代に突入し、30代ならではの仕事や家庭の悩みをおもしろく、でも切なくてすこし苦い大人の青春物語である。ピカンチハーフは、大人になってバラバラになった5人があることをきっかけに8年ぶりに再会を果たす。彼らの手には、8年前、このノートに思い出を書いてと手渡されたノートがあった。このノートを基に物語が進んでゆく。ピカンチとは、ピカイチ・団地・ハレンチの略である。

鑑賞レポート（ネタバレあり）

前々作、前作は一度見たことがあって、3作目はどんな感じなのだろうと楽しみにしていて、みると前作2つに引き続き、5人の主人公は全く変わってなくて、すごく安定感があった。この作品は30代の悩みなどをメインとしていて、大人には大人の悩みがあって、その悩みをおもしろく脚本にしている、すごく面白かった。主人公のうちのリュウの兄の葬式をきっかけに、5人は再会するのだが、本当は兄は死んではいなくて、5人を再会させるためにわざと葬式をひらいたのが印象的でした。堤監督の作品はよく見るのですが、この作品は私の中で一番好きなシリーズです。ピカンチは前々作が10代、前作が20代、そして今作が30代の内容で、サブタイトルが1作目がピカンチ、2作目がピカンチダブル、3作目がピカンチハーフとなっているので、もしかしたら、今後、40代の内容でピカンチトリプル(?)という続編が出るかもしれないので、あと数年後もし続編が放映されるのなら、ぜひ見に行きたい。



映画名「オレンジ」

評価 7/10

ストーリー（ネタバレあり）

高校2年生の春に、菜穂に一通の手紙が届く。その手紙の内容は、後に転校生としてクラスメイトになる翔を助けて欲しいとのこと。しかも、その手紙の差出人は10年後の菜穂。翔は高校3年生で死んでしまう。そんな未来を変える使命が菜穂にはできてしまった。

初めは信じていなかったものの、次々と手紙に書かれている出来事が起こる。そんな中で、他の友達にも、未来からの手紙が自分から自分に届いていることを菜穂は知る。そこから、翔の周りの友達みんなで翔を救う。翔を死なせなかった。

未来からの手紙によって翔を救い出した世界では、手紙とは違ったパラレルワールドが繰り広げられた。

鑑賞レポート（ネタバレあり）

私が心に残っているシーンは、2つあります。

1つ目は、体育祭でのリレーのシーンです。翔、菜穂を含むクラスの仲良しグループみんなの全力疾走と、バトンをつなぐ時の全力の翔への伝言は、全員が同じ強い気持ちで翔と共に生きているという感じがして、とても感動しました。

2つ目は、翔が自殺しようとした時に、みんなで助けたシーンです。手紙に書かれていた事故現場の十字路に姿を現さない翔を心配し、仲間達は翔の家に行ったが、翔は急に家を飛び出して行ってしまったと聞かされました。みんなは手紙に書かれていないことが起きていることに驚き、街中を探し回りました。ようやく見つけたと思ったのもつかの間、翔はふらふらとトラックの前に飛び出してしまった。私はここでやっぱり翔の死は防げなかったんだと思いました。しかし、道路に倒れている翔は生きていました。翔の運命は仲間達によって変えられました。同時に、仲間達の運命も翔が変えたんだなと思い、友達とは支え合って成り立っているんだなと考えさせられました。

## 鑑賞レポート 20727

映画名「バタフライエフェクト」

評価 8 / 10

ストーリー (ネタバレあり)

主人公のエヴァンは幼い頃記憶を失ったことがあった。医師の勧めで日記を書き始めるが、大学生になった頃には記憶障害は起こらなくなっていた。その日記を読み返した時に、過去に戻れる能力があることに気づいた。自分の失った記憶を知るために幼なじみのケイリーにあったことで、彼女を自殺に追い込んだことを知り、過去に戻って運命を変えようと決心する。しかし過去に戻って小さな変化を与えるだけで、周りの人の人生も大きく変えてしまう。エヴァンが誰かを救うと、現在で自分や誰かが不幸になっていた。彼女が初めて出会った時からエヴァンの事を好きだったと聞いて、当時に戻り、わざと彼女を自分から遠ざけて、全く他人としてお互い生きてゆく。

鑑賞レポート

トミー、レニ、エヴァン、ケイリーの4人の幼い頃のイタズラやトラウマが怖かった。それぞれの経験がきっかけとなって人格が大きく変わってしまったので、変化が面白かった。正直、ポストにダイナマイトを入れる前に誰かが止めていたらよかったのにも思ったが、みんなが上手くいく運命に修正するのは難しそうだった。でも何度もみんなのために運命を変えるエヴァンは優しく、強い人なんだと思った。なぜ幼い頃の記憶がなくなるのか不思議だったが、未来の自分が理由があつてしたことだとわかり、納得した。私が一番印象に残ったシーンは、最後の大人になったケイリーとエヴァンが街ですれ違うシーンです。エヴァンが好きな人を守るために別れてまで助けようとしたところがすごく印象に残った。タイトルのバタフライエフェクトとは、蝶の羽の一振りが原因で地球のどこかで台風が起こる理論だと知りました。その由来の通り、過去の小さな一つの変化がとても大きな結果を招いていて、深いと思いました。

映画名「ファインディング・ドリー」

評価 8 / 10

ストーリー（ネタバレあり）

愛くるしいカクレクマノミのキャラクターたちが活躍するアニメ「ファイディング・ニモ」の続編。前作にも登場したちょっぴりドジな愛されキャラ、忘れん坊のドリーに焦点を絞って、彼女の家族捜しの旅に同行する親友ニモと仲間達の大冒険を映し出す。「ファインディング・ニモ」、「ウォーリー」で2度アカデミー賞長編アニメ映画賞に輝いたアンドリュー・スタントンが本作も監督を担当。新しい仲間達も加わった心躍る旅路に、大人も子供も引き込まれる。カクレクマノミのニモの大親友であるナンヨウハギのドリーは、すぐに何でも忘れてしまう。ある日、子供の頃の思い出がよみがえり、一念発起して家族を探す旅に出ることを決意する。おっちょこちょいなドリーを心配したニモは、父親マーリンを説得してドリーの旅に同行する。

鑑賞レポート（ネタバレあり）

前作「ファイディング・ニモ」では親が子を探す物語だったのに対して、今回の「ファイディング・ドリー」は子が親を探す物語となっています。前作では、ニモの未発達な右ヒレをととても心配していた父親マーリンは、子離れできないところがあって、その面が表立っていて、ドリーの忘れん坊なところはサブ的な設定だなと感じていました。でも今回はそのドリーが主役で、障害を持つけど、苦悩とそれを補える力や支えがテーマになっていたと私は思いました。

ドリーは両親を探しに行く旅に出るのですが、忘れん坊なドリーは、道を教えてもらってもすぐ忘れてしまい、弱みを見せるシーンがあります。いつも明るかったドリーの意外な一面が見られましたが、そんな辛さに胸が締め付けられるシーンでした。それでも、前に進もうとするドリーに勇気づけられました。映画の中で、「人生で一番素敵な事は偶然起こる。計画して得られるものではない。」というドリーの台詞がとても印象に残りました。とてもいい言葉だなと感じました。

この映画は、大人でも子供でもいろいろな世代の人が幅広く楽しめる映画だなと思いました。